

大切な水産資源を密漁から守る！ ICT を活用した画期的なシステムを開発



ピーエスエス 株式会社

兵庫県神戸市東灘区御影郡家 2 丁目 5-2-103

URL : <https://sea-security.jp>

先進の ICT を活用した密漁監視・海上防犯システムの販売を通じて、漁業事業者に安心・安全を提供している『ピーエスエス』。同システムは 2015 年 5 月の販売開始以来、大きな反響を呼んでいるという。俳優の村野武範氏が友生社長のもとを訪れ、様々なお話を伺った。

代表取締役 友生 荘一

interview



村野 武範

——早速ですが、『ピーエスエス』さんの業容について詳しくお聞かせ下さい。

当社は、先進の ICT（情報通信技術）を活用した密漁監視・海上防犯システムの販売を事業柱に据えています。

——漁業への ICT の活用とは、画期的なアイデアですね。どういったシステムなのでしょう。

このシステムは沿岸に設置したカメラおよびレーダーの映像を、監視用パソコンから遠隔モニタリングすることが可能でしてね。予めレーダーに設定した警戒領域に不審船が侵入した場合、監視カメラの映像を録画したりすることができます。また、パソコンやスマホへのアラート通知を行い、指定メールアドレスへのメール通知も可能ですから、ご自宅で 24 時間 365 日タイムリーに確認することが可能なのです。一方、レーダー操作キーボードは監視用パソコン側に設置するため、レーダーの設定操作も遠隔で行えるんです。ですから、現地にて設定作業を行う必要がありません。運用面においてお客様の負担が少なく済むのも、大きな特徴ですね。効率的な密漁監視体制により密漁抑止力を高め、多くの漁業事業者の方々に「安心・安全」を提供させていただきます。

——日本周辺の海域は水産資源が大変豊かですが、その一方で近年は密漁による

被害が大きくなっているようですね。

そうですね。仰る通りです。水産物が市場に出回った場合、正規品と密漁品の区別が困難であるため、密漁による被害の全容は把握されていませんが、その被害総額は数千億円規模に上るともいわれます。さらに密漁の手口は年々巧妙化しており、組織的で大掛かりな密漁グループも増加しています。資源保護の観点からも、密漁を未然に防ぐ施策が求められているのですが、なかなか有効な手段を見出せていないのが現状でしてね。一方、漁業事業者が自ら密漁の監視を行うにしても限界がありますから、その被害を食い止めるまでには至っていないことが多いんです。そこで、これまで数々の業界で長年培ってきた営業職でのキャリアと人脈を活かして、警備会社とカメラメーカー、そしてレーダー会社、ソフトウェア会社とタッグを組み、コーディネートを手掛けて密漁監視・海上防犯システムが誕生したのですよ。

——なるほど。けれども、これだけのシステムですと、導入や運用にコストが多くかかってしまうのでは。

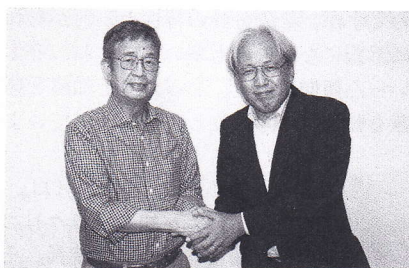
そんなことはありません。このシステムは市販のシステムを組み合わせで活用していますから、圧倒的なコストパフォーマンスを実現しています。2015 年 5 月から

販売を開始し、設置したその日からシステムをご利用いただけるようにするなど、順次必要な改良も実施。お陰様で多くのお問い合わせをいただいております、ある漁業協同組合さんに私共のシステムを採用していただいた際は、メディアからの取材を受け注目を集めたのですよ。

——着実に実績を蓄積されていることが窺えますね。では最後に、今後の展望を。

お客様のニーズに応じて、日々システムのバージョンアップを図っています。今後もシステムの提供を通じて、日本の漁業を守る一助になりたいですね。

(2018 年 9 月取材)



「『ピーエスエス』さんでは、災害から人々を守る防災関連商品の販売も行っているそうです。今年は災害の多い一年でしたし、「備えあれば憂いなし」ですから、こちらの事業もぜひ注目したいですね。友生社長の今後のご活躍を期待していますよ！」

村野 武範・談